

お弁当

食べることは生きる源です
そして、お弁当には心を動かす力があるのかも

LIFESTYLE

人は友という鉄を知ること研磨される

4月より校長に就任した今堀浩先生
星しんぶんでご挨拶です P2



INFORMATION

English Cafe

火曜日の放課後はイングリッシュカフェ
「Can I have a piece of cake, please!」 P8



BOOK

盗まれたお弁当

君はお弁当を盗まれたことはありますか？ もしも、お昼時になっておなかペコペコ、ようやく食事にありつけないと思った時、お弁当がなくなったら……。そりゃもう、ガクシン全身の力が抜けてぐったりしてしまいそう。

この物語の中でお弁当を盗まれたのはきこりです。しかもとても貧乏で、お弁当といえば、ひとかけらの小さなパンひとつだけ。そのパンを盗んだのは、別におなか

減っているわけでもなく、ただただ不幸なきこりをもっと不幸な目に遭わせようと悪巧みをした小さな悪魔。得意になって先輩悪魔たちのところへ行ったのですが、こっぴどく叱られて、なにか役に立つことをするまで帰ってくるなと言われてしまいます。小さな悪魔は、悪魔の力を使ってきこりを助けます。ふたりで力を合わせて困難を乗り越えるのですが、その結果、盗まれたお弁当は何万倍にもなって戻ってくるのでした。不幸が不幸を呼ぶのではなく、不幸が幸福を招く。そういうこともあるのかもしれない。



リトアニア民話
パンのかげらとちいさなあくま
内田莉莎子 再話 / 堀内誠一 画
福音館書店 / ¥990

LETTER

自分を知り、
自分を変える

優れた人は
自分を知っている

いいことは続け、
悪いことはやめる

大人にも できないことを求めない

自律って言葉が最近気になっていて、いろいろ調べています。自律とは、「自分で考え、判断し、行動できること」なんですって。そして、自律はこれからの「激動の時代において最優先される個人の資質」とも書かれていました。僕もそう思う。とりわけ、自分で考える力をつけることって重要で、学校教育ってまさにそのためにある気がします。知識を詰め込むだけではなく、自分で考えるための材料を集める、考える方法を学ぶ、そして、行動してたっぷり経験する。そのために学生時代というのがあるんだろうなあ。

この本は、教育熱心な先生や親が手に取りそうな1冊ですが、君たちにこそふさわしい。考えるってさ、まずは自分の中にあるものを考えられるようにすることが大切で、それを間違えると、考えても考えても答えが出ないんだ。筋肉と似ていて、動かさないと衰える。だから毎日少しでもいいから動かすの。



最新の脳研究でわかった！
自律する子の育て方
工藤勇一 / 青砥瑞人
SBクリエイティブ / ¥990

BOOK

お弁当を遊ぶ！

お弁当をつくるのは楽しいですね。えっ、料理ができないって?! 心配はいりません。料理ができなくてもお弁当づくりを楽しめる方法、それがごっこ遊びです。自分の好きなもの、食

べたいものを、
思いのままにつくって詰め

合わせることができるのです。誰もが経験したことのあるこの遊びをさらに楽しむならこの1冊。お弁当って、あるだけで少し先の未来が楽しみになります。だから本物じゃなくたって、遊びでもしたくなるんでしょうね。

子どもの生活と遊び Vol.1
ごっこ遊びを支える道具

具材

子どもの生活と遊び研究会 著
増山由香里 編著
庭プレス / ¥1,650



BOOK

お弁当の記憶

お弁当づくりの本ってたくさんありますが、その中でもお勧めしたいのがこの1冊。たくさんのこどもたちをとりこにできた人気

絵本です。卵焼きにタコさんウィンナー、お弁当の定番のおかずにおいしいご飯。ああ、読んでるだけでお弁当の味を思い出してしまいます。こういう味の記憶って、どこにしまわれているんでしょうね。味ってかなり正確に思い出せる気がします。たとえ何十年前の出来事でもね。ほら、おふくろの味とかいうでしょ。

おべんとう

小西英子 さく
福音館書店 / ¥990



LIFESTYLE

人は友という鉄を知ることで 研磨される

文 今堀浩 / 写真 辻田美穂子

星しんぶんをご覧の皆様、こんにちは。2022年4月より、北星学園余市高等学校の校長に就任した今堀です。コロナによる影響も小さくなってきたように感じますが、まだまだ学校生活には制限が残っています。そんな中、できることを探しながら本校が大切にしている「人と関わる」機会を通して、生徒たちは成長をしています。

5月下旬に行われた「1年生研修会」は、参加した1年生にとってさまざまな発見の機会となったはずです。これまで関わることのなかった同級生や生徒会執行部のメンバーを知ったり、「やってみたらおもしろかった」という発見がいくつもあったことでしょう。

聖書の言葉「鉄は鉄をもって研磨する。人はその友によって研磨される。」[※]の通り、私たちは人の中で成長する体験を大切にしています。「一人でいるほうが楽」「他人と関わるのは面倒くさい」と言ってしまうほどの経験をしてきた子も少なくありませんし、そう考えてしまうことも理解できます。他人は思い通りに動かないですし、いちいち説明しなければなりません。自分を思い通りに扱うことでさえ難しいのに、ましてや他人をどうこうするなんて大変です。

しかし他者と関わることで世界が大きく広がることも真実です。先程の聖書の一節でも「研磨」という言葉が使われています。自分の中にあるデコボコが滑らかになったり、くすんでいた部分が光ったり。そういう変化は、周りからの指摘や評価の過程で磨かれるからです。他者との摩擦は楽しいことではありませんが、そのしんどさを避けて通るわけにもいかないのが人です。そうであれば、多感な思春期にいろんな価値観に触れながら、今までとは違う物差しを手に入れるような時間を過ごしてほしいと願っています。人の評価は時代や環境によってコロコロ変わります。これ

から先、人を評価する物差しの種類をひとつでも多く増やしていくことが大切です。素材も色も硬さも違う「鉄(価値観)」を知り、その鉄によって研磨されながら光ってほしいと思います。

※ 聖書 新共同訳 箴言27章17節



今堀浩 | Hiroshi Imahori

1991年より北星余市高校に勤務。今年から校長に就任し、行動半径は縮まったが、頭がついていかない毎日。特にたくさんの人の前での挨拶が苦手だと痛感。週に1回の総合講座で海や山に行くことが気分転換。

LIFESTYLE

甘く、苦く、 時にはしょっぱく

文・写真 荒瀬祥文

ひょんなことがきっかけで北星学園余市高等学校の方に依頼され、文章を書くことになった。ふだんは報告書と大学の課題くらいでしか書かないのだが、やってみようと思い立ったことと、頼まれたことはなんでも挑戦してみようという精神で日々過ごしているため、今ここに文章を書いている。

少し僕の歴史を語ると、現在は、大阪にある「関西こども文化協会」という子どもの権利条約の具現化を目指しているNPO法人で、子どもたちに関わる事業に携わっているが、その前は、中学1年生の途中から30歳近くまで引きこもっており、社会のルールに乗らず、ちょっと不思議な生き方をしていた。

「お弁当」というテーマで一番初めに思い浮かんだのは、まだ中学校に通っていた時、昼食の



お弁当を憂うつな気持ちで食べていた光景を思い出した。しかし最近、ある人にお弁当箱をプレゼントしてもらった。みずから進んで作る弁当の味はおいしくはないが、ワクワクした気持ちで取り組み、日常の中に彩りを与えている。これまた、たまたまとてもお世話になっている職場の方、お二人から手作り弁当を頂く機会があった。年齢も今まで経てきた経験も違うが、今は同じ場所で同じ方向を向いて仕事をしている。

そのうちのお一人は、自分が社会に出ようとした時に1日仕事体験をする機会があり、そこで初めて出会い、帰り際に笑顔で僕を見送ってくれた人だ。何気ない笑顔だったのだろうが、その笑顔が自分は社会の中でもやっていけるかもと思わせてくれ、今もとてもお世話になっている。もう一人の方は、出会いは最近だが、特別視することなく見てくれ、とても尊敬できる人だ。そしてお弁当箱をプレゼントしてくれた人は、一緒にいるとずっと笑顔でいられるような人だ。

自宅のドアの外へ出たことで、多くの人と出会い、世界も広がり、しんどくつらいこともあったが、笑顔の数もたくさん増えた。高等学校卒業程度認定試験を受け、通信制の大学にも通うようになり、世界がさらに広がった。自由な時間は減ったが心はより自由になった。甘く、苦く、時にはしょっぱい味のする具たくさんのお弁当のような人生を歩んでいけたらと思う。



荒瀬祥文 | Masafumi Arase

1985年12月12日生まれ。「NPO法人関西こども文化協会」に所属し、こどもの居場所づくり「ティーンズスペース」、こども食堂「ごはんの会」、放課後児童クラブ研修を担当している。中学生から30歳近くまで引きこもり、その後社会参加をし現在に至る。

LIFESTYLE



作ってわかった母の凄さ

文・絵 今堀桃花

小・中学校と昼食は給食でした。私とお弁当の生活が久しぶりに始まったのは高校生の頃です。母の作るお弁当は、食べ盛りの私のリクエストで2段重ねのボリュームなもの。塩昆布をあえたピーマンと卵焼きが定番のおかずで、気心の知れた友人数名と共に、廊下の隅のほうで集まって食べる日々。何となしに「青春」という言葉が浮かぶような、とても楽しい時間でした。思えば、自分が一緒に過ごしたいと望んだ人と、好きなものを食べられるという経験は、義務教育期間中にはあまりなかったかもしれません。高校時代のお弁当は、私の中でとても楽しい思い出と紐付いています。

それからしばらくの時が経ち、大学を卒業した私は、新卒で入社した会社に通うために一人暮らしを始めました。食費の工面のために自炊を始め、職場で食べるお弁当も自分で作りました。好きなものや前日の晩ごはんのおかずなどを思うままに詰めたお弁当はおいしかったものの、記憶の中の楽しげなものではなく、腹を満たすためだけといった風体でした。自分でお弁当を作った経験を経て、改

めて母のお弁当を振り返ると、いかに母がいろんなことを考えてお弁当を作っていたかというを感じます。おいしく、彩り豊かで、満足できる量で、デザートや果物まで。これを週5回用意することは、私にはまだできませんでした。

さて、それからというもの、私は先述の会社で社会の厳しさをこれでもかと味わい、半年を待たず退職。現在は実家で長めの休養期間を過ごしています。再び親元に戻ると、なおさらひとつひとつの食事が、どれほど私たちのために想って作られているのかを感じます。私は、いまだに人のためにそこまでのことをする余裕がありません。いつか、自分のことと同じくらいに人を慮れるようになれるのかな……。お弁当を通して、憧れのような、畏敬のような。そんなことを想いました。



今堀桃花 | Momoka Imahori

49期卒業生。絵とハンドメイドがちょっとできます。現在余市町にて絶賛休職中かつ求職中。好きな言葉は「胡乱(うろん)」。

お弁当の本と音楽と映画



きょうのおべんとう なんだろな

きしだえりこ さく / やまわきゆりこ え / 福音館書店

子どもたちが大好きなお弁当。フタを開ける時のドキドキ、好きなものが入っていた時のワクワク。みんなで見せ合いっこしながら食べるうれしい気持ち。動物達の好物もわかる楽しい絵本。最後のページで誰のお弁当か当てっこ遊びもできます。お弁当食べたーい!! (鈴木恭子)



ぐりとぐら

なかがわりえこ・おおむらゆりこ / 福音館書店

お弁当と聞いてすぐに思い付きました。仲よしのぐりとぐらが、森中の動物たちにカステラをふるまっていて、僕も食べたいなーと思ったり、どうやったらあんなにおいしそうなのが作れるんだろうと、イメージしたことも。みんなでごはんを囲みたくなる1冊! (小杉遼河)



マイ・シャローナ

The Knack

「先生、バナナはおやつに入りますか？」小学校の遠足の前の日に交わされる会話です。おやつ→スナック→ナックということで、The Knack (ザ・ナック) の『マイ・シャローナ』を聞きながらお弁当を食べたいです。(谷口学)



弁当屋さんのおもてなし

喜多みどり / 角川文庫

札幌が舞台のお弁当屋さんのお話で、主人公が抱える悩みや問題を、おいしいお弁当を通して解決していき、心が満たされるお話です。読んでいたらおながが空いてきます。こんなお弁当屋さんがあったら毎日通うのって思います。(中村希絵子)



お弁当ばこのうた ~あなたへのお手紙~

半崎美子 作詞・作曲

子どもの成長への喜びと寂しさを母親の目線で書いた詩。食べているところは見られないが心を込めて作るお弁当と、読んでいるところは見られないが相手を想いながら書く手紙は似ていると思う。半崎美子さんが1年以上かけて作成した曲は感慨深い。(紺野良子)



から揚げ弁当

ほっともっと

唐揚げ弁当が好きです。親が作ってくれた唐揚げがおいしかったからです。特に好きなのはほっともっとの「から揚げ弁当」。とても柔らかくしつかりと火が通ったおいしい唐揚げは、味付けや揚げる時間の調整が必要です。ぜひ唐揚げのおいしさを知ってください。(2B 元木裕人)



サラメシ

NHK

職場でお弁当を開ける。そこにはその人への応援が詰まっている。その人がどんな仕事をしているのか、家族はどんな人たちなのか。サラメシは見ていてほっこりします。時々お金ちょうだい! なんて言ってる自分を反省します。(安河内敏)



こぐまねこ軒

自分を人間だと思っているレッサーパンダの料理店 鳩見すた / マイナビ出版

文体はライトですが、たまにすごく刺さる。いろいろな悩みを抱えている登場人物たちは、全員どこかでつながっていて誰かを想って行動しています。何度も読み返しはしませんが心に残る本。すべてがハッピーエンドではないですが幸せな読後感でした。(1A 田中舞)



ホットサンドイッチクッカー

CHUMS

ちょっぴりお弁当を作るのがめんどくさいなーって時の私の武器。お家でも少しキャンプ気分。外で作ったらぜいたく気分。スキなものサンドしまくるのもあり、少しホルモンを焼くのもあり、お弁当の枠を超えてしまいそうな万能くんです。(菅野瑞希)



東京喰種 トーキョーグール

石田スイ

トーカが友達に唐揚げを1つもらい、友達の前ではおいしそうに食べ、その後苦しみながら飲み込み「…ご馳走様…食べたよ」というシーン。喰種なのでもらった唐揚げは食べられる味ではないのに、しっかり飲み込んだトーカに優しさと人間味を感じた。(3B 杉澤遼太)



母へ

半崎美子 作詞・作曲

来る日も来る日も、誰よりも早く起きてお弁当を作る母に感謝です。毎日僕らが飽きないような工夫をしてくれる優しさに「ありがとう」を言いたいのですが、いつも言い忘れます。当たり前にある生活、それは母のおかげだと気づかせてくれる、そんな曲です。(3A 矢島輝幸)



お弁当

小学校の頃親が作ってくれた弁当は、給食よりめっちゃうまいので好きでした。中学生になって弁当は行事の時にしか食わなくなったけど、たまに食う弁当はマジでうまい。高校生からはずっと弁当です。寮の人が作ってくれる弁当はめっちゃうまいです。あと『おべんとう』って曲があるらしい。(2A 清水向成)



ヒキガエルとんだ大冒険① 火曜日のごちそうはヒキガエル

ラッセル・E・エリクソン 作 / ローレンス・ディ・フィオリ 絵 佐藤涼子 訳 / 評論社

「カブトムシのさとうがし」をおばさんに届けたくて、「力のパイ」や「アリの卵のサラダをはさんだサンドイッチ」「どんぐりのお茶」をお弁当に、旅に出るヒキガエルの話。お菓子もお弁当も、不思議とめっちゃめっちゃおいしそうで食べてみたくなる。(伊藤葉子)



今日も嫌がらせ弁当

塚本連平 監督・脚本

毎日何気なく食べているお弁当。同じなら飽きちゃいそうだし、持って歩いた時にひっくり返らないように詰めなきゃいけないし、せっかくならおいしく食べてほしい。なんて考えると難しい。それでも気持ちがいっぱい詰まったお弁当。自分のためなら続かないかな。(小野澤慶弘)



ランチのアッコちゃん

柚木麻子 / 双葉社

主人公のOL三智子は、ある出来事をきっかけに上司から「ランチ交換」を提案されます。自分用に作っているお弁当は上司が食べ、三智子は上司が日替わりで訪れている飲食店へ。ありそうでない「ランチ交換」という設定がおもしろい。食べることは元気の源! (辻田美穂子)





EVENT

みんながいたから

富樫乙華（1年B組）

強歩遠足で30km歩きました。絶対歩けないと思っていたし、つらいだけの行事だと思っていました。第3関門に着くまでは楽勝だと思っていたけれど、第3関門から第4関門まではとても長く、ずっと登り道で終わりが見えず、地獄のように感じました。でも、みんなで「第4関門まで頑張ろう、第5関門まで頑張ろう」と言いながら歩いていたら、気がつくとうゴールしていました。

いつも一緒にいる4、5人で歩いていたのですが、もしも1人で歩いていたら、完歩することは不可能だったと断言できます。私が「もう無理」「もう歩けない」と思った時に「一緒に最後まで頑張ろう」と声をかけてくれ、肩を貸してくれたり、荷物を持ってくれたりしました。一緒に歩いてくれたみんなには感謝しかないです。

最後の高速の辺りまで行くと、先にゴールしていた友達が来てくれていて、なぜかはよくわからないけれどとても頑張れました。ゴールでは担任の先生やPTAの人たち、先輩が出迎えてくれて、ゴールできた感動で泣きそうになりました。

完歩したあとのうどんがおいしすぎて、3杯も食べてしまいました。一研の時に8km歩いたのがキツすぎて、30km完歩するのは絶対に無理だと思っていたけれど、みんなで話しながら完歩できてすごくうれしかったです。

私はもともと運動は得意じゃないし、体力もないし、「やめたい」「もう無理」とすぐに言って諦めてしまう人間なので、30km完歩したのは自分でも驚きでした。友達と歩くことで知らなかったことを知れたり、友情が深まったりで、つらいだけの行事じゃないんだなって思いました。



LIFESTYLE

人生の経験に
無駄はないなあ

文・写真 藤井一歩

僕は余市町で「3Bird」という屋号でふたつの活動をしています。主な活動は「3Bird」という店舗でのカフェ業です。人気商品は自家焙煎のコーヒーと店内で作った食パン、それを使用したサンドイッチです。夫婦で経営していて、妻がコーヒーと焼き菓子などの部門、僕は食パン、サンドイッチ、ドーナッツやカレーパン(冬季間)などの食事部門を担当しています。また「3Bird design」としてグラフィックデザイン業も営んでいます。

「料理」と「デザイン」という、好きなことを仕事としていられることに幸せを感じているのですが、ここに至るまでは失敗も含め、いろいろなことがありました。それらを振り返って思うのは「人生の経験に無駄はないなあ」ということです。

例えば「料理」。バンド活動をしながらフリーターだった20代前半、ワーキングホリデービザでカナダに行き、働いた鮎屋さんで「まかない」という名の食事がうれしくて、すてきな職業だ！と思い、帰国後選んだ職業は迷いなく飲食店でした。そして独立し、スープカレーとピザとビール



早朝オープン前の店内



を出すカフェバーを経営していましたが、こどもが生まれ生活スタイルを変えるため閉店、その後就職し、本格ピザの店の立ち上げを任されました。そこでは、半年以上ピザの開発に専念させてもらいました。その経験が生きて、今ここでみんなに美味しいと言ってもらえる食パンを生み出すことができたと思っています。自分のお店を閉める時は悲しかったけれど、辞めたことでピザの開発に携わりその時に培った技術が、今につながっていると思うのです。

また、一番人気の厚焼き卵のサンドイッチも、先述のピザ店を退職したあと、田舎で子育てがしなくて黒松内町に移住しスープカレー屋を始めたのですが、全然お客さんが来なくて苦肉の策で移動販売の弁当屋を始めました。その弁当に毎日入っていたのが厚焼き卵です。多い時は毎日100個くらいの卵で卵焼きを作っていました。その経験ですっかり卵焼きが得意になりました。ほかにも、弁当屋は超朝早起きなのですが、そのライフスタイルが自分たちには心地よく、ここ余市に来た時もやるなら朝早いお店だねと話し、「3Bird」は朝7時オープンにしました。やっぱりここでも何かしらつながっているのです。

誰にも訪れる人生の転機、その時はこの先どうなるんだろうと不安に思うのですが、振り返るといつもすべてが今の幸せにつながっています。だからこれからも安心して好きなことをして生きていきたいと思います。デザインや、余市生活など、僕の中での「人生の経験に無駄はないなあ」ストーリーは尽きません。きっとこれからも人生の最後まで、それは続いていくんだろうと思います。



藤井一歩 | Kazuho Fujii

3Bird coffee / design代表。音楽大好き料理人。「Song of the 3Bird」名義でDJみたいなこともしている。最近ベースを手に入れグルーヴィーなベースラインの練習をしている。また、デザイン勉強のためデッサン教室に通って楽しんでいる。

LIFESTYLE

共に食べること

文 西岡知洋

「今日の弁当、何？」友人から声をかけられたのは、昼休みにはまだ早い授業の合間のことだった。私は当時実家のあった小樽市から北星余市高校に通っていた。毎日のお弁当は母親が作ってくれていたのだが、下宿生活のその友人は、いつも私がお弁当を食べているのを見て「いいなあ。お前の弁当いつもウマそうだな」と言っていたものだった。「今日の弁当は、これ」と言って、私は食べるにはまだ早いお弁当のふたを開けてみせた。友人はそれを見て「弁当交換しない？」と言った。これは予想外の提案だった。何も考えず私は「いいよ」と言ってしまった。友人のお弁当の中身を知らないままに……。

いつもより早い昼食が始まった。1つの机に向かい合わせでお弁当を広げる。交換したお弁当をおいしそうに食べる友人。不思議と会話が弾む。そういえばあまり深い話をこの友人とはしたことがなかったと気がついたのだった。

私は一人で外食することが苦手だ。今でもなかなか一人ではできない。大学時代の学食や町のごはん屋さん。けん騒の中の食事。孤独の味には慣れることができない。今思い返すと北星での昼休みもつらかった。けれども、あの日ばかりは違って、共に食べることの喜びをかみしめたのだった。

聖書を開くと、イエス・キリストは孤独を押し付けられた人々と共に食卓を囲んだことが記されている。「共に食べること」を通して「あなたは独りきりじゃない」と伝えるために。そうやって関わりを持ちつながって、命を肯定するためにイエスはごはんを食べたのだ。

今、孤独の中で食事せざるを得ないのちを想う。そのような暮らしの中で、自分は何をなすべきだろうか。「今日の弁当、何？」と関わってくれたあの友人から今歩むべき道を示されているような気がする。ちなみに、私が食べたあのお弁当の中身は、思い出の中にしまっておこうと思う。



西岡知洋 | Tomohiro Nishioka

日本キリスト教団余市教会牧師・リタ幼稚園園長。高知生まれ小樽育ち。2001年北星余市高校に入学。37期生。好きなお弁当のおかずは玉子焼き。お弁当でびっくりしたことは弁当箱一面がソーメンだったこと。

COLUMN



カメラマン美穂子

表紙写真の
「お裏」

星しんぶん表紙の写真には、1号からずっと一貫したテーマがあります。それは「多様性」と「関係性」。多種多様な人たちが同じ場所に集うことで、化学反応を起こしながら築き上げている関係性は、北星余市の魅力のひとつです。学校には先生と生徒だけではなく、寮母さんや地域の方々もいます。今月の表紙はその中のひとりである「ひねさん」と、そこに集う生徒たち。

ひねさんは週に一度、「総合講座」という選択授業のひとつを担当していますが、また別の日の放課後には「English Cafe」という、授業とは違った場づくりもしています（詳しくは裏面に！）。「英語」と聞くだけで、「苦手」とか「意識高い人が集まってそう」と思う人も多いのではないのでしょうか？でもEnglish Cafeは、そんな気持ちをいったん横に置いて、とりあえずのぞきにいてみるのがおすすめです。何を話していいかわからない時は、「なぜニューヨークで坊主になったの？」と、ひねさんに聞いてみてください。毎回ケーキだけ食べにいくという人は、ひねさんの海外でのエピソードは15年分もあるので、ひとまず1話だけでも聞いてみてください。それらはきっと自分の限界や想像をぶっ壊してくれ



るはず。会話が苦手なら、机に置いてある雑誌や英字新聞をただ眺めるだけでも発見があるかもしれないし、いろんな学年の生徒が集まっているから、ふだん接点のない人と話すきっかけになるかも。

English Cafeでは、ケーキを英語で注文する以外「こうでなければならない」というのはありません。むしろ、「こんな選択肢もこんな世界もある。さあ、どうする？」状態。「なんだそれ？」と思う人は一度足を運んでみてください。いつ

もいる校舎の一角から、一切れのケーキをきっかけに、自分の世界が広がるかも。私も高校生の時にこんな場所に出会っていたら違う人生を送っていたのかななんて、English Cafeをのぞきにいくたびに思います。

辻田美穂子 | Mihoko Tsujita

大阪から移住した写真家。北星余市でのたくさんの出会いを通して人生が変わったひとりです。今年の春に余市からせたなに引っ越して子育てしながら、時々赤ちゃんを背負って撮影に出かけています。



QUESTION

おのざわ先生に
きいてみよう



Q 記憶に残ったお弁当はありますか？

A 今も忘れられない私の記憶に残るお弁当。一番は小学生の頃、母に持たせてもらったお弁当である。サッカー少年で、週末になると近隣のチームとの試合に出かける私に持たせてくれたお弁当は今でも忘れることができない。

QUESTION

進路カフェ
生き方に正解なんてない

文・写真 高崎麻美

「進路」という言葉を聞いた時、皆さんはどのようなことが頭に思い浮かびますか？ 大学、就職、専門学校…一般的にはこのようなことだと思います。

本校では「進路」＝「生き方」と捉えています。なので、卒業後の進路先として大学や専門学校に必ず行ったほうがいいという勧め方をしていません。大切なのは大学に行くかどうかということではなく、何のためにその道を選択するのか、その道を選択する目的は何なのか。すなわち、どんな生き方をしたいと思っているのかが重要なのではないのでしょうか。

中学校までは義務教育で、高校も進学する人がほとんど。ここまではある程度のルールが敷かれていたと思います。しかし、高校卒業と同時に、そのルールはなくなります。そして、膨大な選択肢の中から取捨選択しなくてはなりません。人生は選択の連続です。人の数だけ生き方があるように、進路選択に正解なんて一つもないのです。

いい人生とは？ 幸せとは？ これは大人でも一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。人によっていい人生の基準も、幸せの基準も違います。だからこそ、自分がどうありたいか、何に興味があるのかを知ることは大切です。ただ、高校卒業後の進路として、いきなり「生き方を考える」なんて言われても、サンプルを知らなければ考えることは難しいと思います。



この進路カフェでは、年に数回さまざまな分野の方をお招きして、「進路」＝「生き方」について考える機会を設けています。7月7日に行われた際には5人の方をお招きし、生徒の事前アンケートを基にグループ分けをして、それぞれの方からお話を聞きました。教員を経て起業した方、海外に留学経験がある方、ドラフト1位指名で入団し、退団後は工場に勤務している方など、来てくれた方の経歴もさまざまです。大人がどんな生き方や考え方をしているのか、どんな思いがあってそこにたどりついたのか、何のためにその仕事をしているのか、そんなことを知る機会は高校生のみんなにとって貴重だと思います。その生き方からヒントを得て、自分たちの人生の参考にしてもらえたらうれしいなという気持ちで、この進路カフェを開いています。

みんながサンドイッチやのり弁、幕の内ふうのお弁当を持って集まる中で、バッグを開けるとタッパーが2つ。弁当箱ではなく、タッパーが2つ。いや～な予感が脳裏をかすめたが、そっとふたを開けると真っ白い米だけのタッパーと、間違いようのない香りを放つカレーの入ったタッパーであった。心の中で「なんだこりゃ！」「これが弁当？ で、す、か？」冷えた白米に冷め切ったカレーをかけて食べる昼食。ちょっとおいしくないし、なんだか恥ずかしい気持ちになった。

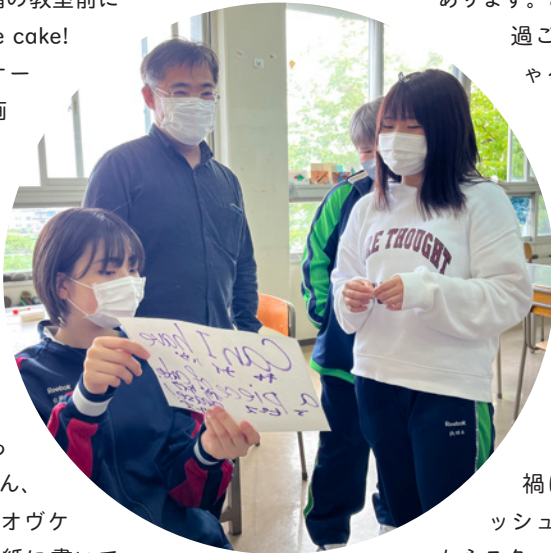
別の日には、ポットの飲み物を一口飲んで、さぁ～食事と思ったら、盛大に口に含んだ液体が飛び出していった。「なんじゃ？ こりゃ？」まさかと思ってタッパーを開けるとそこには、一口大にまとめられた麺がぎっしりと並んでいるではないか。そう、ついさっき吹き出したのは「めんつゆ」だった。

INFORMATION

English Cafe

火曜日の放課後、北星高校の3階の教室前には、「Today's cake is a chocolate cake!

(本日のケーキはチョコレートケーキ)」という文と絵が書かれた画用紙が貼り出されます。テーブルの上にはポットに入ったお湯。飲み物は紅茶、コーヒー、ホットチョコレート、オレンジジュース。そして手作りケーキとクッキーにビスケット。ルールは1つだけ。「Can I have a piece of cake, please!」と英語で注文しなければケーキにはありつけません。でも心配ありません、英語と「キャナイハブア ピースオヴケーキ プリーズ!」とカタカナで紙に書いて



INFORMATION

2022年度も
全国で教育講演・相談会を開催します。

教育講演・相談会では、各会場とも前半約1時間は北星余市高校の説明を中心に、教育についてお話しします。北星余市の教育理念のみならず、子育てについて大切なことは何かを考える機会にしていれば幸いです。残りの時間は、ほかの方に聞かれない形で、本校教員が個別に相談をお受けします。お待ちいただく間は、PTAや、PTA OB、卒業生が皆さんとお話しいたします。

※開催時間は全日程13:30～17:00です。

〈北海道地区〉

10月15日 土 帯広市 帯広市民文化ホール
10月16日 日 北見市 北見芸術文化ホール
10月22日 土 函館市 サン・リフレ函館
10月23日 日 札幌市 かでる2・7

〈東北地区〉

10月 1日 土 福島県 郡山市労働福祉会館

友達はその様子を見て、おもしろがって弁当をのぞきにきては「俺、カレー好き」とか「さっぱりしていいよね!」なんて言ってくれていた。今でこそカレーも蕎麦もコンビニで普通にお弁当として置いてあるが、当時はお弁当に持たされるなんて夢にも思わなかった。なんなら正直ちょっと恥ずかしい。勘弁してくれよ。それが当時の本音だった。

しかし今になると、カレーも、うどんも、ラーメンだって、なんだってお弁当になっている。それが当たり前になって改めて考えると、すげーなことに気がついた。水筒に入った麺つゆ。タッパーに入ったカレー。その時の常識や当たり前に捉われず、こうすればできる、これなら実現可能というふうを考えることって、本当はすごいことなんだってやっとう理解した。恥ずかしいなんて思って申し訳なかったな～。



伊藤葉子 | Yoko Ito

大阪出身。放課後英語教室「ひね塾」主催者。時々イングリッシュカフェ@北星余市のオーナー。中学卒業後渡米。ラグナヒルズハイスクール卒業。そのあと又渡米。ニューヨークで暮らす。約12年のニューヨーク生活の後、子育ての環境を考えて北海道余市町へ。

あります。あとはこれを読むだけ。

過ごし方は自由です。もっと英語をしゃべってみたい人はオーナーの「ひね」に英語で話しかけたり、英検の相談をしたり、海外生活や文化について日本語でお話したり、ただ友達とお菓子を食べながらおしゃべりしたり。英語の雑誌や、海外の情報が読める雑誌、英語の教材なんかも置いています。いわば、英語や海外文化をきっかけとしたコミュニティスペースです。コロナ禍によって中断されていたイングリッシュカフェが、2年半ぶりに今年の春からスタートしました。

〈関東地区〉

10月 2日 日 東京都 品川区立中小企業センター
10月29日 土 埼玉県 日本環境マネジメント株式会社
10月30日 日 茨城県 県南生涯学習センター
11月13日 日 神奈川県 かながわ県民センター
2月23日 木祝 東京都 未定
3月21日 火祝 東京都 未定

〈中部・北陸・関西地区〉

10月 8日 土 愛知県 ウィンクあいち
10月 9日 日 大阪府 ドーンセンター
11月12日 土 大阪府 ドーンセンター
2月25日 土 愛知県 ウィンクあいち
2月26日 日 大阪府 エル・おおさか
3月18日 土 大阪府 未定
3月19日 日 愛知県 ウィンクあいち

〈中国・四国・九州地区〉

10月10日 月祝 広島県 東区民文化センター
11月 5日 土 福岡県 博多バスターミナル
11月 6日 日 沖縄県 沖縄県立博物館・美術館

編集後記

皆さんの原稿を読んで、お弁当ってこんなに奥深いものなのかと思いました。記憶に残る味がある。その味と共に思い出す人がいる。お弁当に限らず、何かを思い出す時に頭に思い浮かぶ人がいるって、とてもすてきなことだなと思うのです。私も誰かの記憶に残る様なお弁当を作れるだろうか。(高崎麻美)

高校の時、母が作る弁当はいつも詰め込みすぎて具材が少し潰れていた。大学進学と同時に一人暮らしを始めた僕は、コンビニのチキンをおかずに、米だけ詰めた弁当を食べようになった。その時はじめて、弁当箱に詰められていたのは、子を思う母の気持ちだったことに気がついた。(本城甲斐)

